

大阪府

【第1回泉州病院連絡会資料 更新版】
【第1回泉州医療・病床懇話会資料 更新版】

泉州二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

Contents

1 泉州二次医療圏の概要

- (1) 今後の医療需要の見込み
- (2) 医療体制の概要
- (3) 診療実態の分析の結果

2 高度急性期から急性期(急性期一般※)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) MDC別診療実績の推移(DPC)
- (4) 現状と課題のまとめ

※急性期一般入院基本料 (旧7対1、10対1)

3 急性期(地域一般※)から回復期の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

※地域一般入院基本料 (旧13対1、15対1)

4 長期療養(慢性期)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

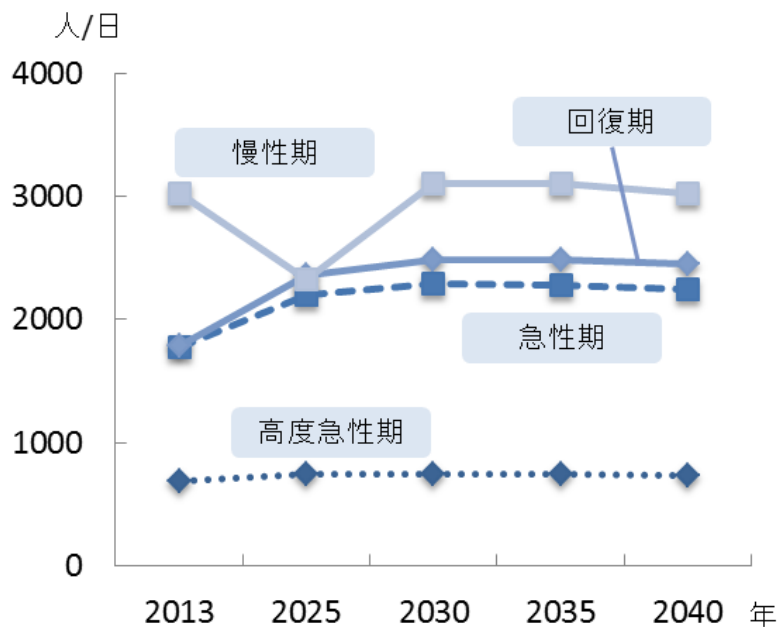
5 将来のあるべき医療体制に向けて

- (1) 2025年に各病院が検討している
医療機能・病床機能
- (2) 目標とする指標(案)

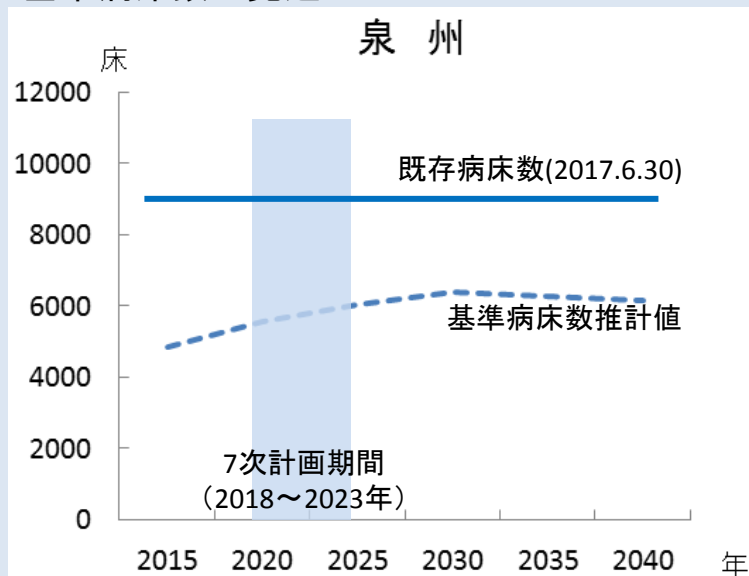
1 泉州二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

泉州二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みでは、2030年においても、既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	692	745	1.08	749	1.08	741	1.07	729	1.05
急性期	1,772	2,198	1.24	2,286	1.29	2,279	1.29	2,247	1.27
回復期	1,781	2,361	1.33	2,490	1.40	2,487	1.40	2,455	1.38
慢性期	3,027	2,321	0.77	3,098	1.02	3,101	1.02	3,025	1.00
合計	7,272	7,625	1.05	8,623	1.19	8,608	1.18	8,456	1.16

参照：第7次大阪府医療計画
一部改編

1 泉州二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

泉州二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が7病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が2病院である

●主な医療施設の状況

所在地	病院名	新公立病院改革プラン補足調査対象	公的医療機関等2025プラン対象病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院
岸和田市	市立岸和田市民病院	○			○	○				□							
	医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院									○	○	○					
泉大津市	泉大津市立病院	○				○				○				○			
貝塚市	社会医療法人慈薫会河崎病院					○											
	市立貝塚病院	○				○				○							
泉佐野市	社会医療法人栄公会佐野記念病院					○											
	医療法人康生会泉佐野優人会病院								○								
	りんくう総合医療センター	○			○	○				○	○	○		○	○		○
和泉市	社会医療法人啓仁会咲花病院					○											
	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター	○					○	○	○	□			○	□			
	府中病院		○		○	○				○							
	和泉市立病院	○				○				○							
泉南市	社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会新泉南病院		○			○											
阪南市	社会医療法人生長会阪南市民病院	○				○											
熊取町	永山病院					○											
岬町	医療法人誠人会与田病院								○								
合計		7	2	0	3	5	8	1	3	8	2	2	1	3	1	0	1



※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。

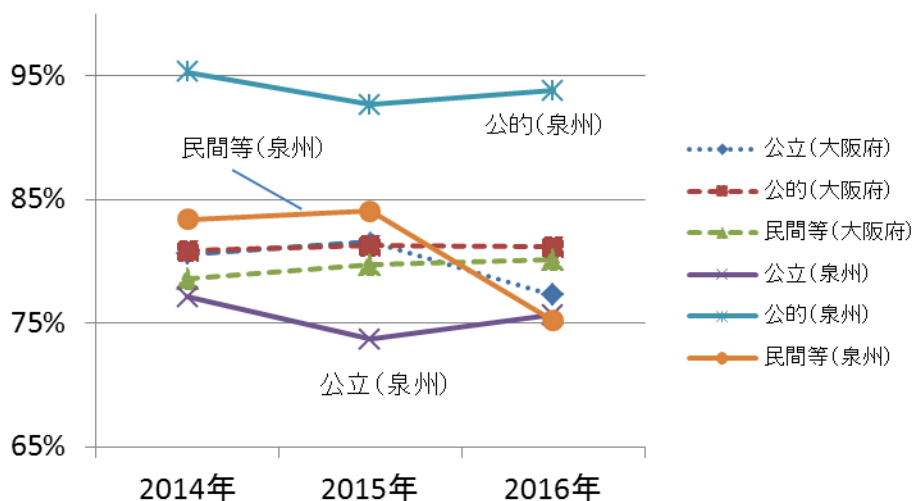
※ 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

1 泉州二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②

過去3か年、泉州二次医療圏では、病床稼働率は公立・公的において横ばい傾向、平均在院日数は民間等において減少傾向にある

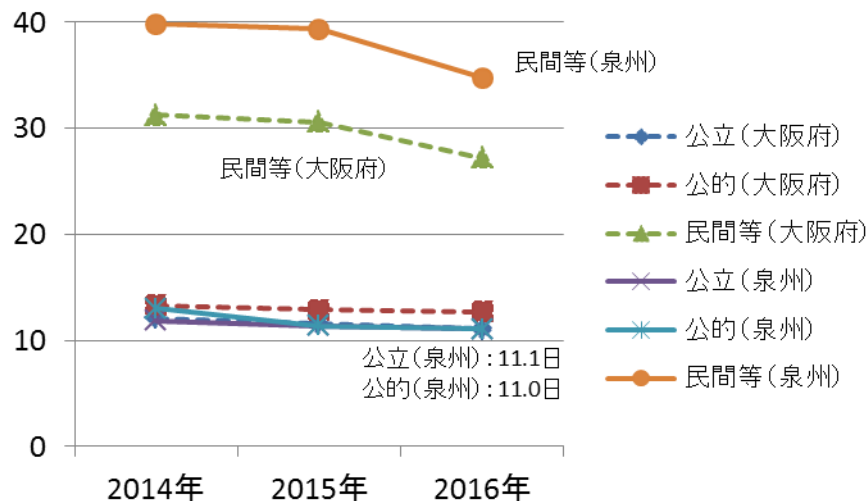
1 病床の運用状況

● 病床稼働率 (在院患者数、許可病床数から算出)



※各年6月30日から翌7月1日まで

● 平均在院日数 (在院、新規入院、退院患者数から算出)



※各年6月30日から翌7月1日まで

参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧 (病院プラン等結果)

2 各病院の医療機能一覧(資料2-2 P4) ※病院連絡会資料 P8

3 各病院の非稼働病床への対応状況一覧(資料2-2 P2) ※病院連絡会資料 P2

1 泉州二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果①

入院基本料について看護配置が多くなるほど、(重症)急性期と分類される病棟の割合が高くなる

●急性期報告 病床数(病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	2,189	76.3%
地域急性期	679	23.7%
欠損値	160	
計	3,028	

●(参考) 高度急性期報告 病床数 (病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	1,005	98.0%
地域急性期	20	2.0%
欠損値	0	
計	1,025	

●診療報酬別の急性期病床の分析結果

診療報酬別区分	分析病床数					(参考) 不明 病床数
	合計	(重症)急性期		地域急性期		
		病床数	割合	病床数	割合	
一般病棟7対1	1,547	1,514	97.9%	33	2.1%	0
一般病棟10対1	702	515	73.4%	187	26.6%	54
一般病棟13対1	174	47	27.0%	127	73.0%	59
一般病棟15対1・特別	56	0	0.0%	56	100.0%	35
小児入院医療管理料	258	113	43.8%	145	56.2%	0
地域包括ケア病棟入院料・入院管理料	70	0	0.0%	70	100.0%	0
緩和ケア病棟入院料	61	0	0.0%	61	100.0%	0
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	0	0		0		12
合計	2,868	2,189	76.3%	679	23.7%	160

1 泉州二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果②

回復期機能を担う病床数では、2017年度病床機能報告と2025年度病床数の必要量を比較すると、割合の差が8%程度と推計できる

●病床機能報告と病床数の必要量の比較

(単位:床)

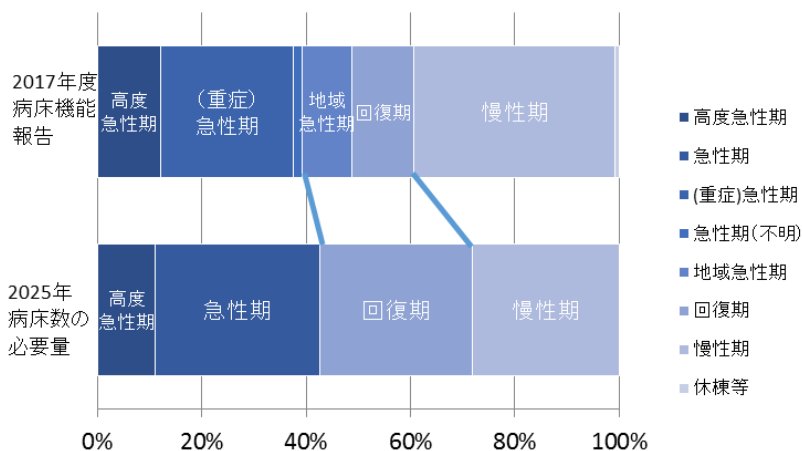
区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
病床数の必要量	2013	923	2,271				1,979	3,291			8,464
病床機能報告	2014	612	3,647				935	3,409	39	297	8,939
病床機能報告	2015	618	3,562				970	3,251	55	452	8,908
病床機能報告	2016	932	3,265				931	3,479	118	171	8,896
病床機能報告	2017	1,044		2,189	160	810	1,023	3,321	76	—	8,918
病床数の必要量	2025	993	2,818				2,623	2,523			8,957

合計 3,159

※有床診療所における急性期報告病床は、地域急性期に分類。

●病床機能報告(2017年度)と病床数の必要量(2025年)の割合(少数第2位を四捨五入)の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等
病床機能報告	2017	12.1%		25.4%	1.9%	9.4%	11.9%	38.5%	0.9%	—
病床数の必要量	2025	11.1%	31.5%				29.3%	28.2%		



サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告

地域急性期 + 回復期 21.3%

② 病床数の必要量

回復期 29.3%

割合の差※ 8.0%

参照：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧(病床機能報告暫定結果)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (1) 病床の現状

「救命救急入院料・特定集中治療室管理料等」及び「小児入院医療管理料」は、人口10万あたりの病床稼働率が、府平均より高い

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	泉州		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	165床	18床	2,071床	23床
小児入院医療管理料	258床	29床	1,578床	18床
特定機能病院一般病棟入院基本料等	0床	0床	4,945床	56床
一般病棟7対1	2,407床	267床	28,048床	317床
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	860床	95床	5,695床	64床
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	1,547床	171床	22,353床	253床
一般病棟10対1	756床	84床	9,147床	103床

●病床の利用状況

入院料区分	泉州		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	87.1%	5.2	70.5%	4.7
小児入院医療管理料	83.2%	8.2	74.4%	6.7
特定機能病院一般病棟入院基本料等			80.7%	12.2
一般病棟7対1	87.5%	10.2	82.3%	10.9
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	96.2%	10.5	84.8%	8.8
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	82.6%	10.0	81.7%	11.5
一般病棟10対1	76.4%	14.5	75.6%	14.9

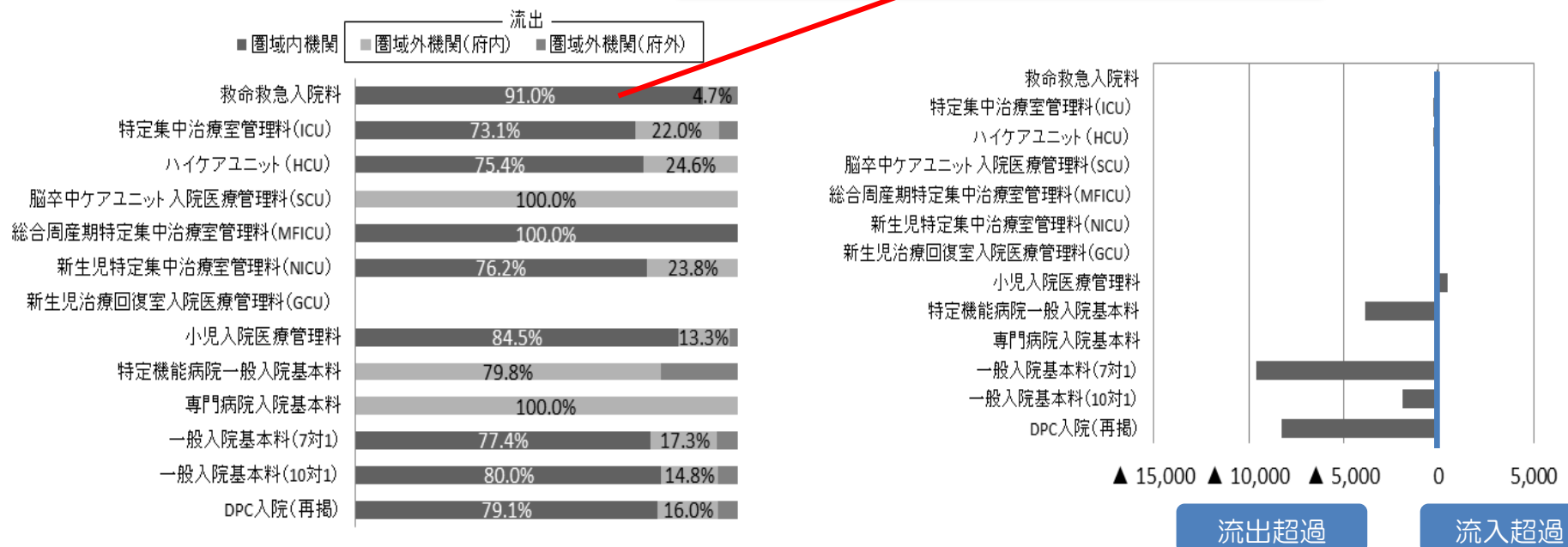
2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ①

「救命救急入院料」をはじめ、各入院料の自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は高い一方、「一般入院基本料(7対1)」等において、流出超過の傾向が見られる

1 入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況

救命救急入院料にかかる自己完結率は「91.0%」

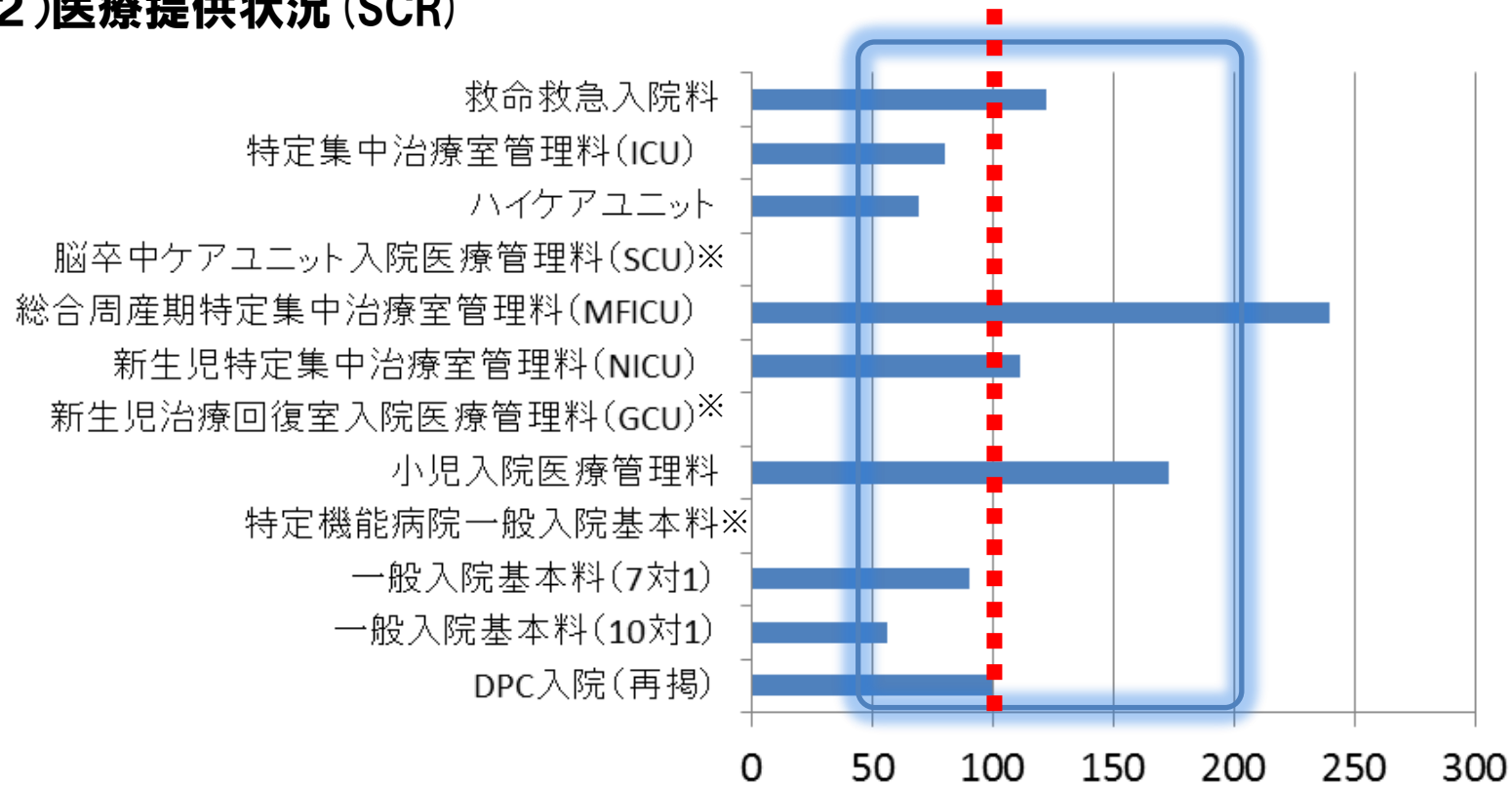


参照：【資料2-4】泉州二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ②

多くの入院料は、SCR(50～200)範囲に含まれており、医療提供実績が極端に低い入院料は見受けられない

(2)医療提供状況 (SCR)



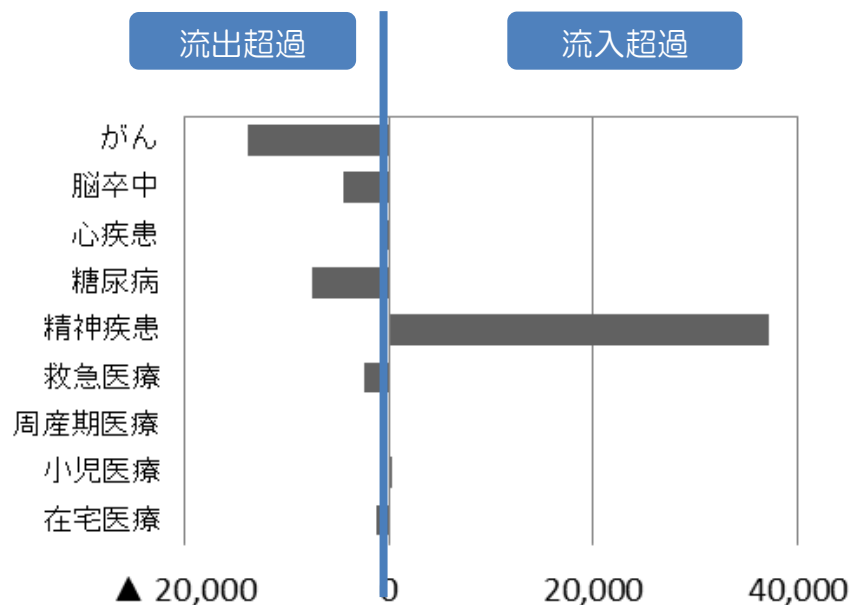
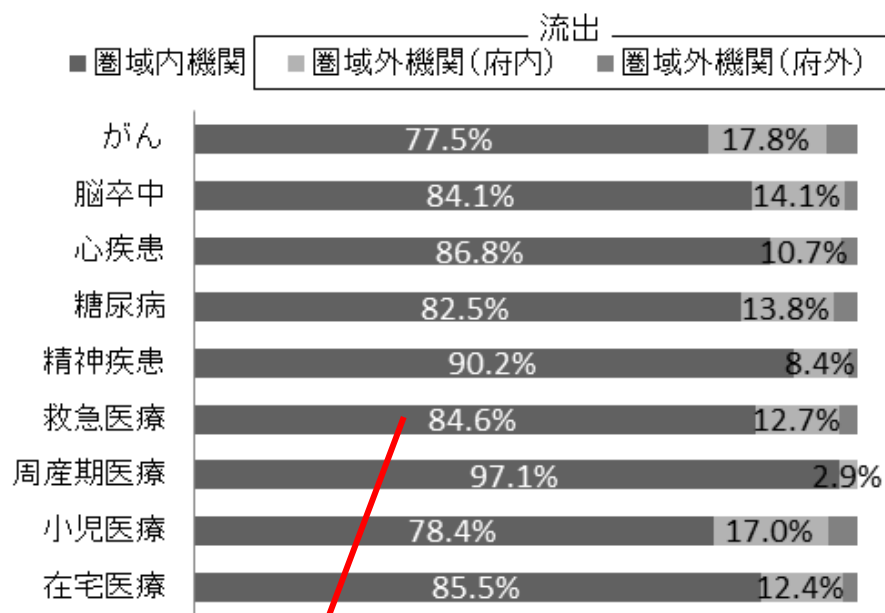
※SCU・GCU・特定機能病院一般入院基本料は、入院料は、取得している医療機関がないため未算出

参照：【資料2-5】泉州二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

疾病・事業の自己完結率は比較的高く、精神疾患においては、特に流入超過の傾向が見られる

2 5疾病4事業・在宅医療

(1) 患者受療状況



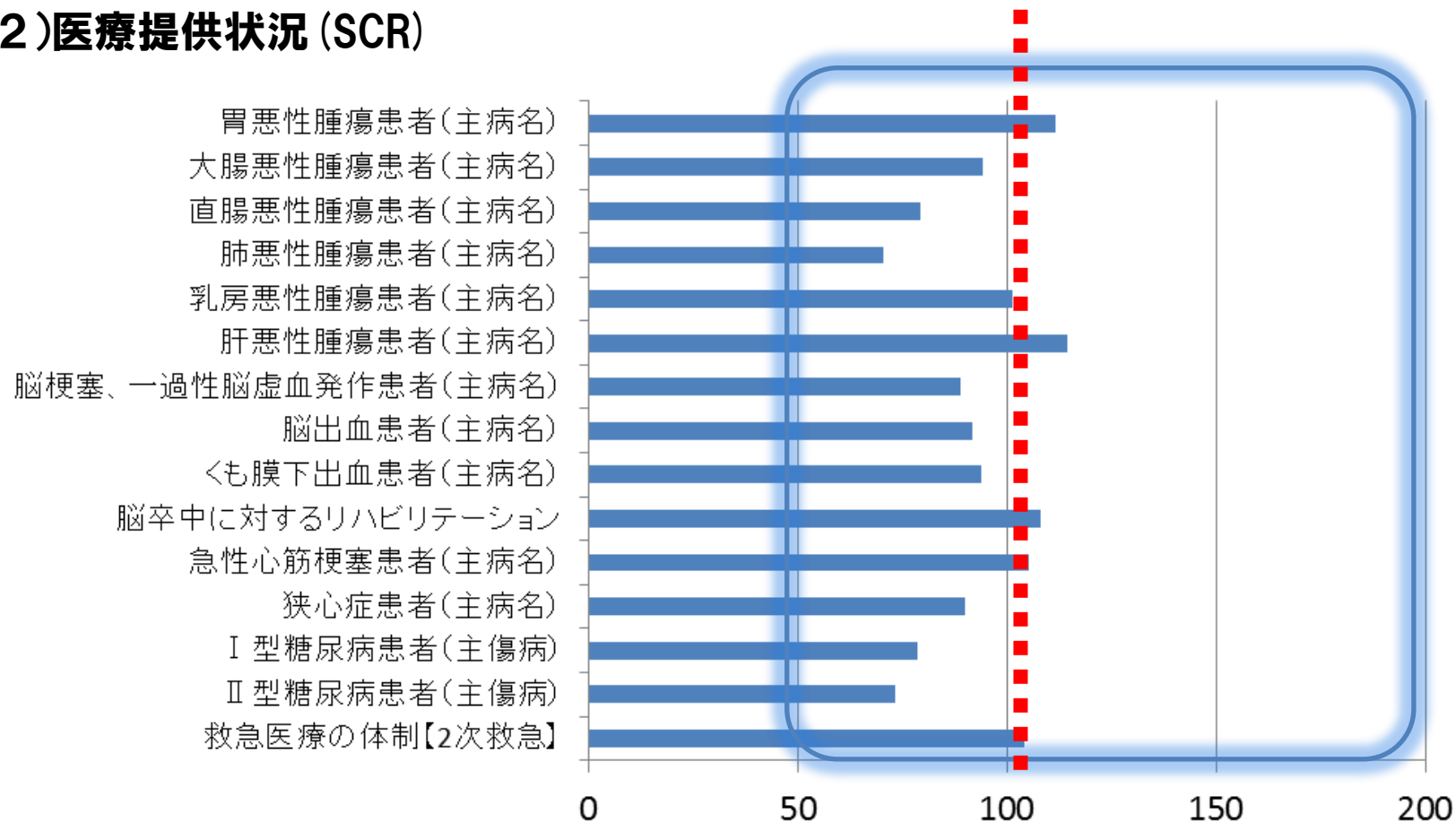
救急医療にかかる自己完結率は「84.6%」

参照：【資料2-4】泉州二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ④

多くの疾患は、SCR(50~200)範囲に含まれており、医療提供実績が極端に低い疾患は見受けられない

(2)医療提供状況 (SCR)

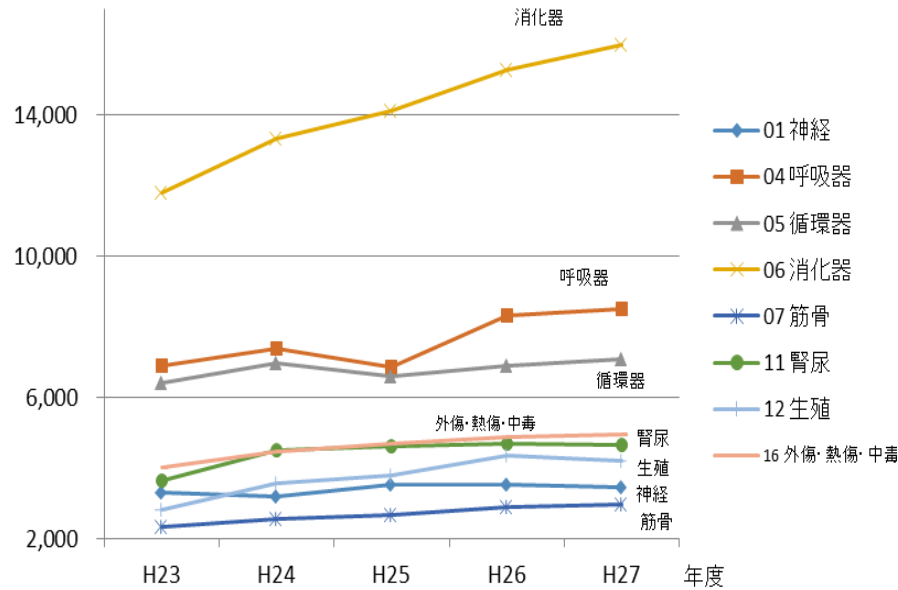


参照：【資料2-5】泉州二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

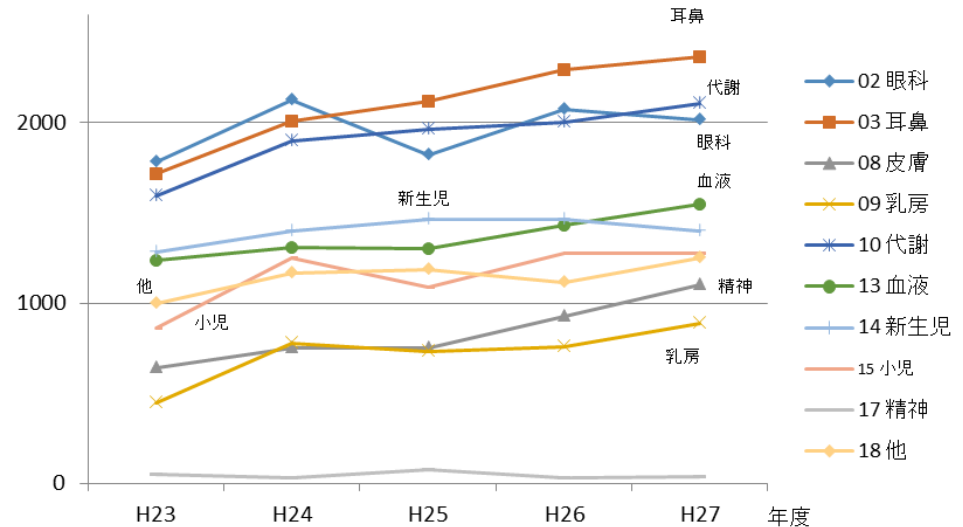
2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (3) MDC別診療実績の推移(DPC)

部位別の診療実績から、「消化管」をはじめ、多くの部位において需要は増加傾向、もしくは横ばいの状態で推移している

● 診療実績2,000件以上



● 診療実績概ね2,000件未満



参照：【資料2-6】DPC参加病院と泉州二次医療圏におけるMDC別診療実績の推移

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (4) 現状と課題のまとめ

- 入院料の多くは、府平均より人口10万人当たりの病床数は低くなっているが、病床の利用状況で見ると、病床稼働率は府平均より高くなっている。
また、一部入院基本料については、流出超過傾向にある。
- 5疾病4事業に関する主要疾患については、一定の医療提供実績が認められる。
- 今後の医療需要増加に対応していくためには、他圏域との流出入の状況等に留意し、急性期の医療提供体制の在り方について検討していく必要がある。

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (1) 病床の現状

人口10万当たりの病床数では、「回復期リハビリテーション病棟入院料」は府平均より高く、病床稼働率については、「一般病棟15対1・特別」と「地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料」は府平均より高くなっている

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	泉州		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
一般病棟13対1	233床	26床	2,277床	26床
一般病棟15対1・特別	91床	10床	3,427床	39床
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	184床	20床	2,434床	28床
回復期リハビリテーション病棟入院料	862床	96床	5,912床	67床
緩和ケア病棟入院料	61床	7床	593床	7床

●病床の利用状況

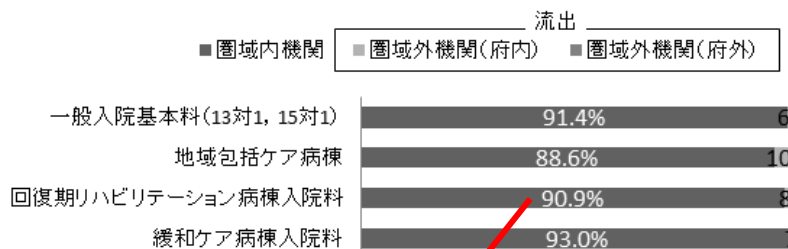
入院料区分	泉州		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
一般病棟13対1	75.8%	22.2	71.4%	21.0
一般病棟15対1・特別	82.5%	39.9	69.3%	35.8
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	84.5%	25.4	77.7%	24.0
回復期リハビリテーション病棟入院料	89.6%	55.1	89.6%	61.4
緩和ケア病棟入院料	65.3%	21.6	70.7%	25.2

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)①

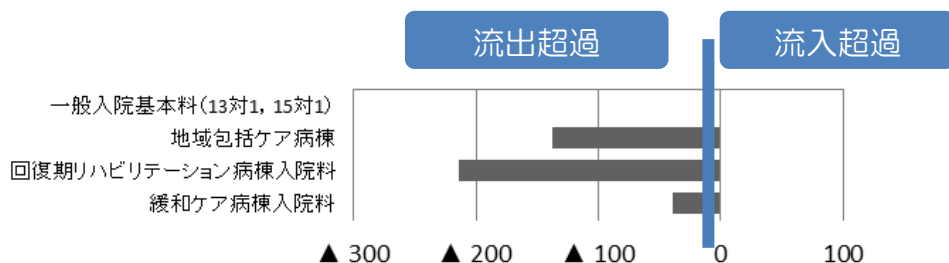
すべての入院料において、自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は約9割と高くなっているが、「回復期リハビリテーション病棟入院料」「地域包括ケア病棟」では、流出超過傾向である

○入院基本料別の状況

(1)患者受療状況

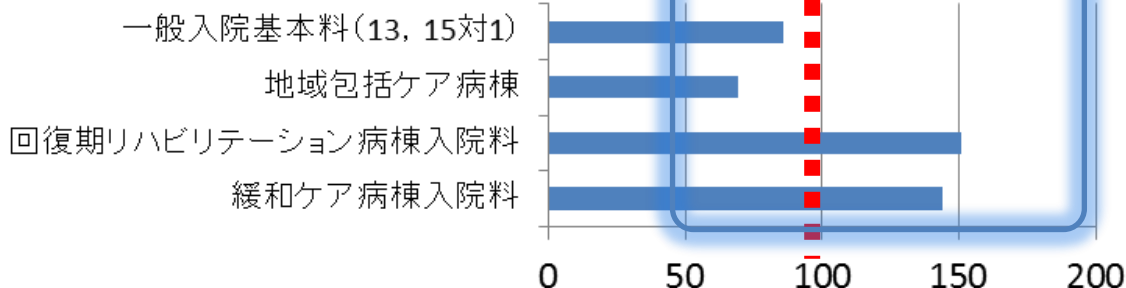


回復期リハビリテーション病棟入院料の自己完結率は「90.9%」



参照：【資料2-4】泉州二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

(2)医療提供状況 (SCR)



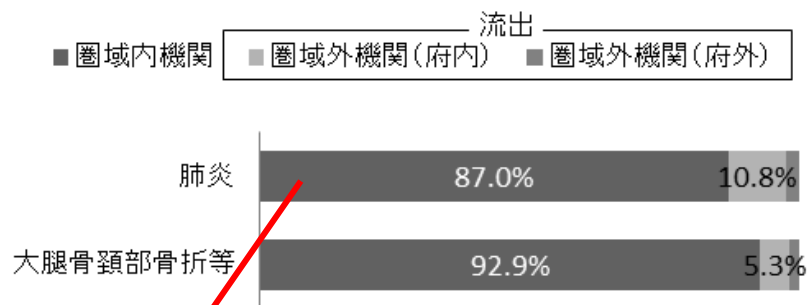
参照：【資料2-5】泉州二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)②

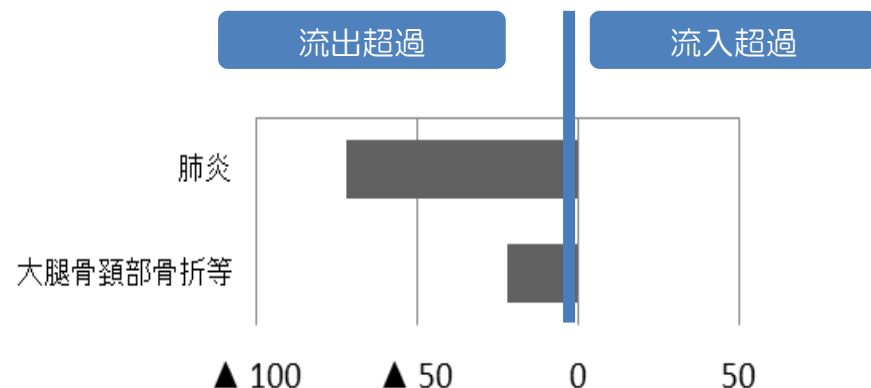
肺炎・大腿骨頸部骨折等について、自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は、約9割と高くなっている

○肺炎・大腿骨頸部骨折

(1) 患者受療状況

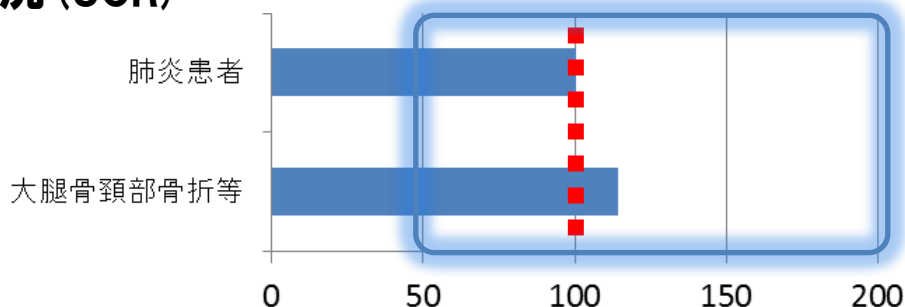


肺炎の自己完結率は「87.0%」



参照：【資料2-4】泉州二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

(2) 医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】泉州二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (3) 現状と課題のまとめ

○すべての入院料において、自己完結率は約9割と高く、肺炎・大腿骨頸部骨折等についても、自己完結率は、約9割と高くなっている。

○一方、「回復期リハビリテーション病棟入院料」「地域包括ケア病棟」では、流出超過傾向も見られる。

○多くの入院料において、府平均より病床稼働率も高いため、今後の医療需要増加に対応していくためには、今後の医療提供体制の在り方について検討していく必要がある。

4 長期療養(慢性期)の概要 (1) 病床の現状

「療養病棟入院基本料1」「同基本料2」「介護療養病床」の人口10万当たりの病床数は、府平均より多く、病床稼働率でもすべての入院料において、府平均より高くなっている

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	泉州		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
療養病棟入院基本料 1	1977床	219床	14,414床	163床
療養病棟入院基本料 2	737床	82床	2,351床	27床
介護療養病床	459床	51床	1,788床	20床
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	142床	16床	5,881床	67床

●病床の利用状況

入院料区分	泉州		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
療養病棟入院基本料 1	93.4%	220.1	89.6%	219.5
療養病棟入院基本料 2	72.0%	263.0	81.3%	203.2
介護療養病床	94.8%	230.9	93.0%	339.0
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	90.8%	78.4	86.7%	95.4

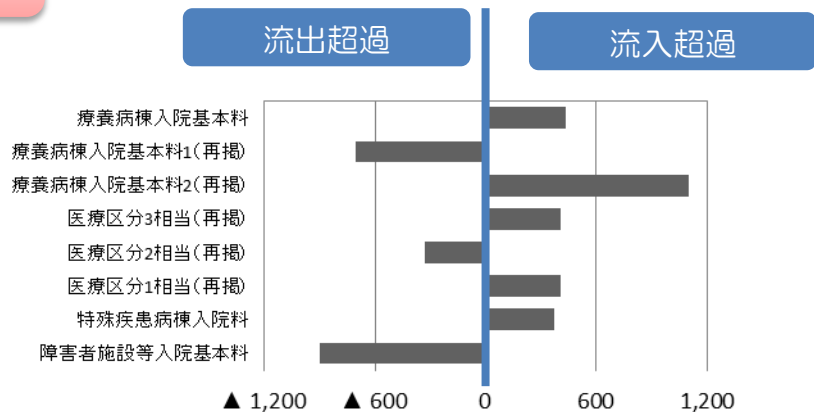
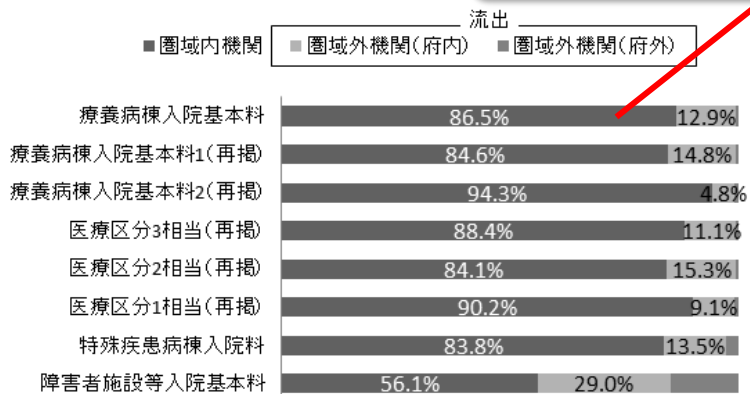
出典：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧（病床機能報告暫定結果）

4 長期療養(慢性期)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)

「療養病棟入院基本料」の自己完結率は86.5%と高く、流入超過の傾向が見られるが、「障害者施設等入院基本料」については自己完結率も低く、流出超過となっている

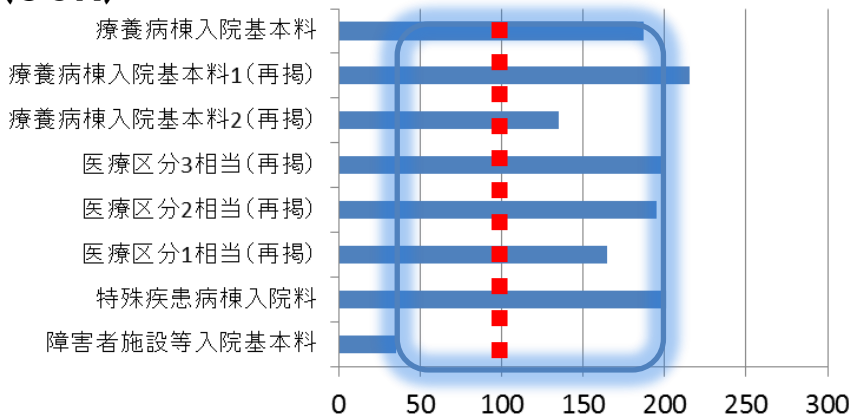
○入院基本料別の状況 (1)患者受療状況

療養病棟入院基本料の自己完結率は「86.5%」



参照：【資料2-4】泉州二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

(2)医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】泉州二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ) 20

4 長期療養(慢性期)の概要(3) 現状と課題のまとめ

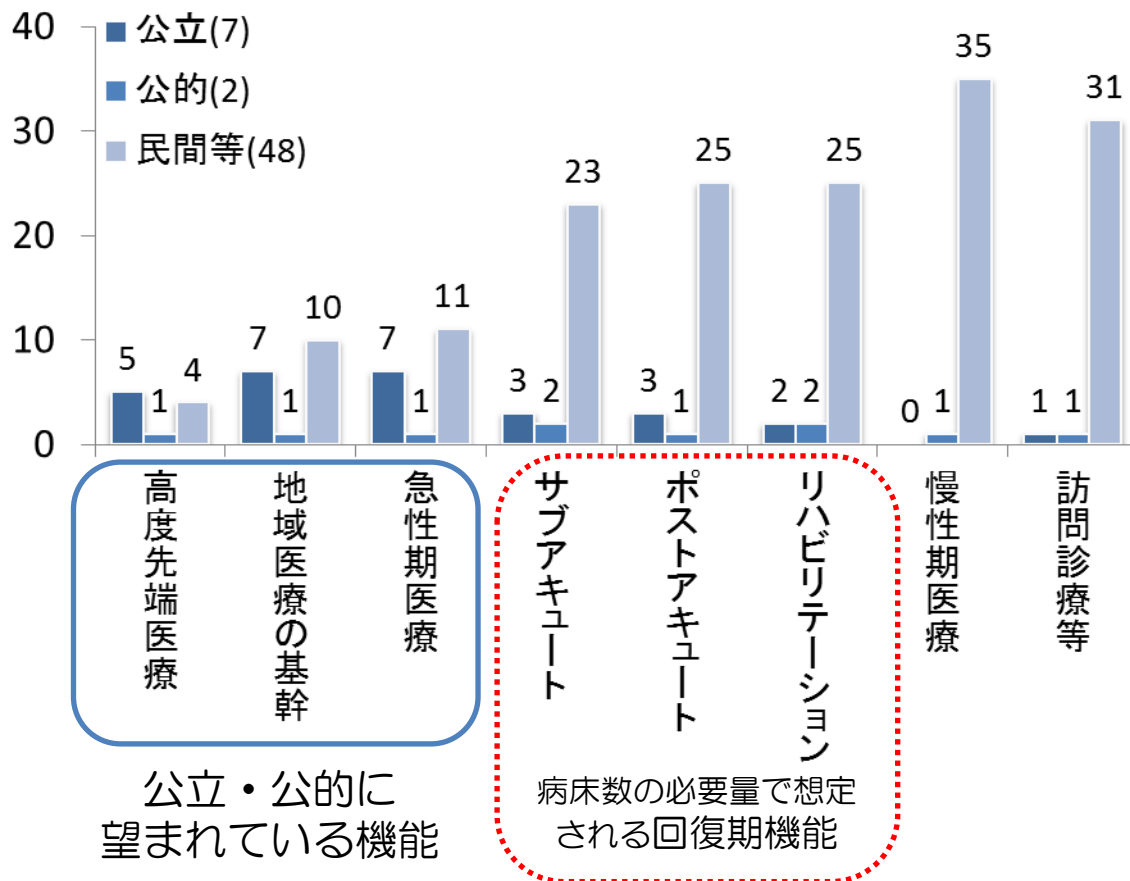
○多くの入院料において人口10万当たりの病床数は府平均より多く、自己完結率やSCRも高くなっている。

○今後の需要に対応した病床機能分化を図っていくためには、療養病床の介護施設への転換の状況等にも留意しながら、検討していく必要がある。

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能①

多くの民間等では、「回復期」「慢性期」「訪問診療等」について、将来担うべき機能と回答している

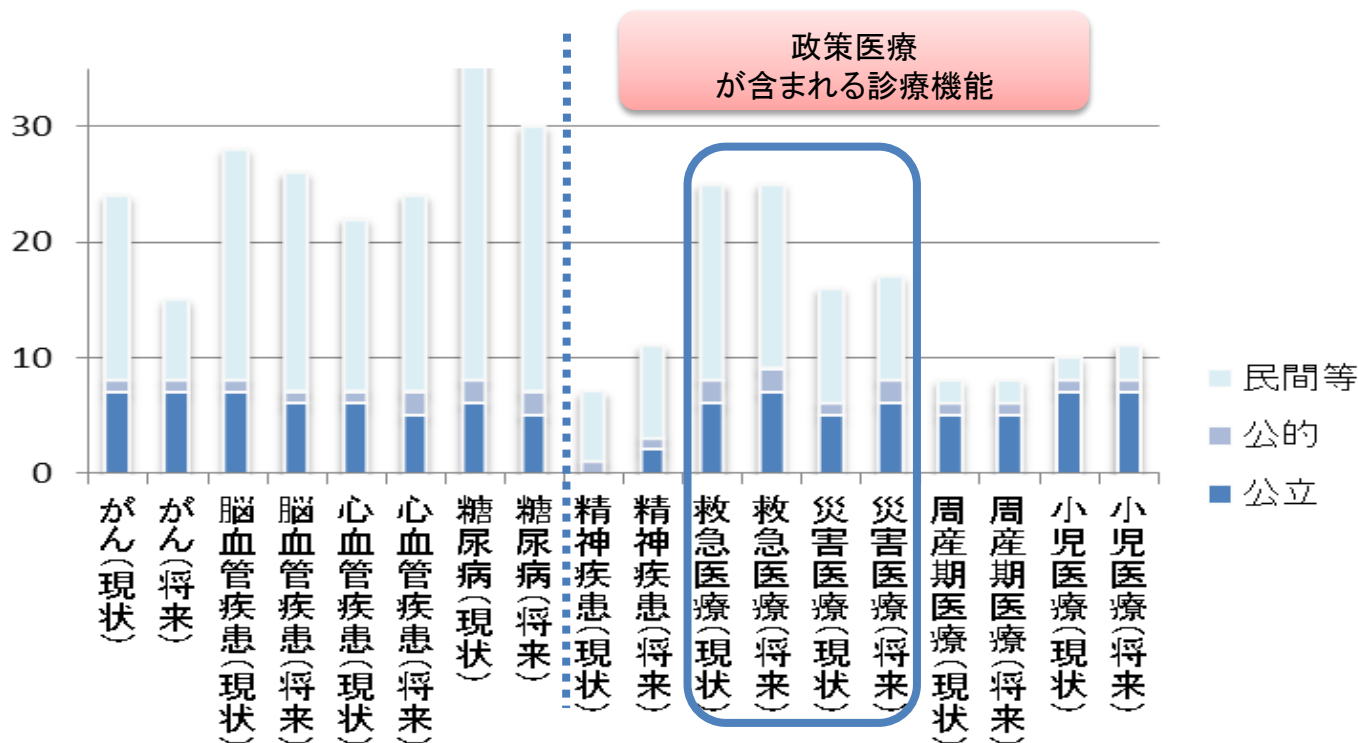
1 病院自身が将来担うべきと回答している病床機能



5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能②

政策医療が含まれる診療機能の中で、「救急医療」「災害医療」については、公立・公的医療機関に加え、民間等医療機関においても将来担うべき診療機能であるとの回答数が多かった

2 将来担うべきと回答している診療機能と現状との比較※



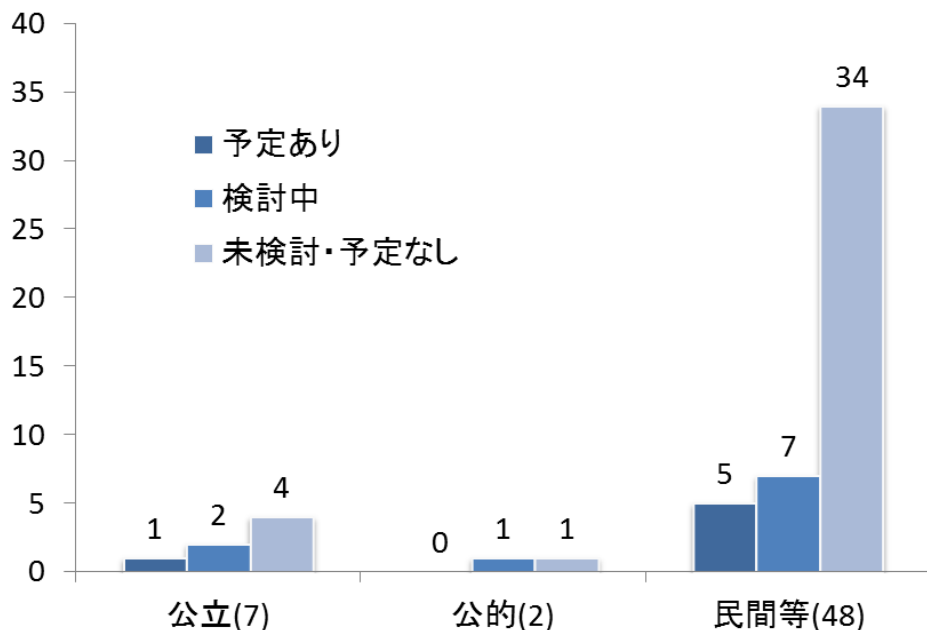
※「現状」は、第7次大阪府医療計画の策定にあたり、医療機能情報提供制度に係る医療機関調査等の結果をとりまとめたもの。
「将来」は、特に定義を定めていないため、比較には留意が必要。

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能③

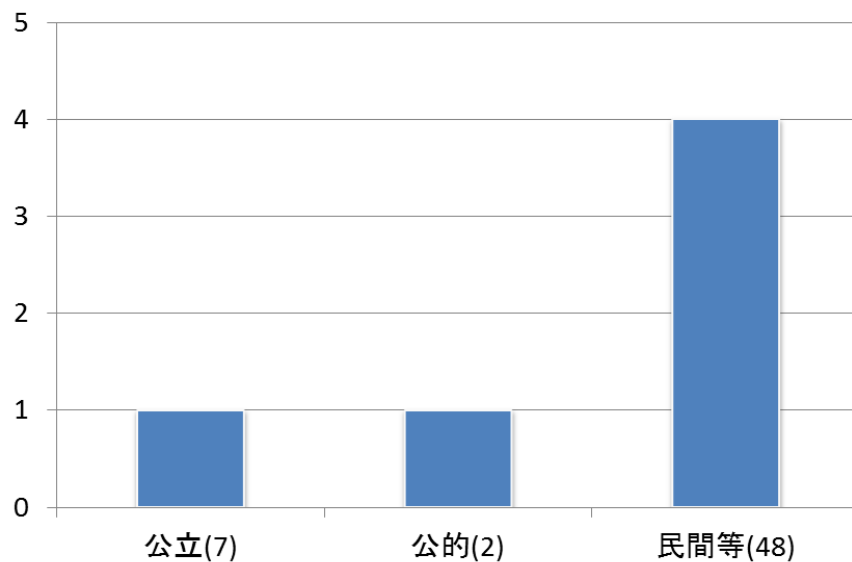
2025年に向けた病床機能・病床数の変更について、公立・公的の約4割が「予定あり」「検討中」と回答し、民間等の約7割は「未検討・予定なし」と回答している

3 2025年に向けた各病院のプランのまとめ

● 2025年に向けた病床機能・病床数等の変更
予定の有無



● 地域医療介護総合確保基金（病床転換に対する一部経費の補助金）の活用の希望

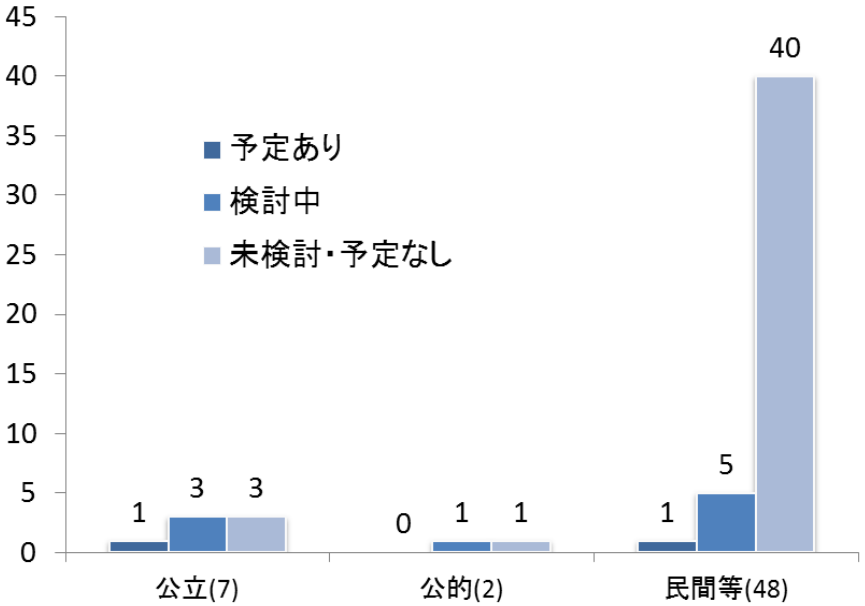


参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

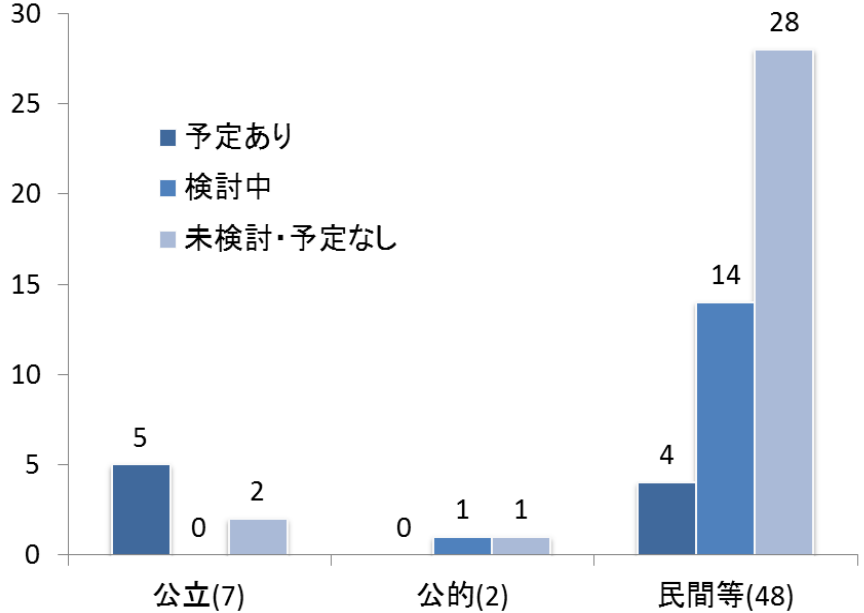
5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能④

すべての医療機関の約4割において、2025年に向けた建物・設備の整備・改修について、予定があるか、検討中となっている

● 2025年に向けた診療科の見直し予定の有無



● 2025年に向けた建物・設備の整備・改修予定の有無



参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

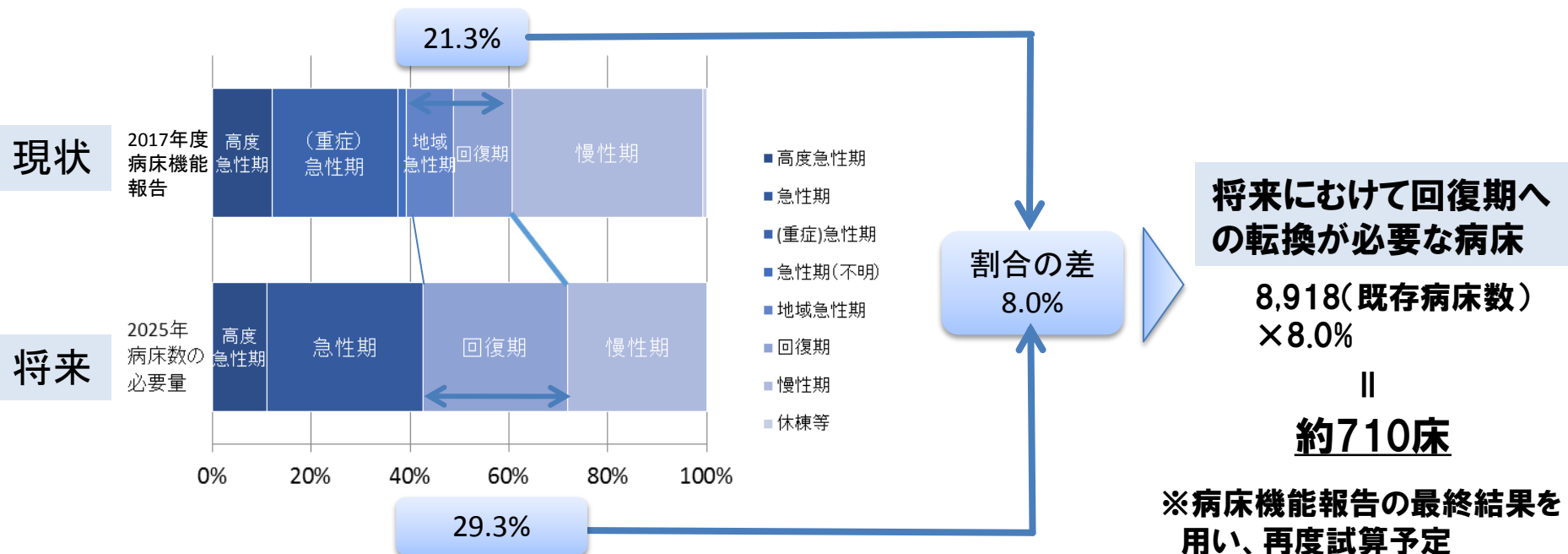
4 2025年までに各病院が検討している医療機能(資料2-2 P5) ※連絡会資料 P9
 ・病床機能(資料2-2 P6,P8,P9,P10)一覧 ※連絡会資料 P11,P13,P14,P15

5 将来のあるべき医療体制に向けて（1）2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能のまとめ

- 将来担うべき役割として、多くの民間医療機関では「回復期」「慢性期」「訪問診療等」と考えており、「救急医療」「災害医療」の政策医療が含まれる診療機能については、公立・公的医療機関に加え民間医療機関においても、将来担うべきと考える医療機関が多い。
- 2025年に向けた病床機能・病床数の変更について、公立・公的医療機関の約4割が「予定あり」、「検討中」であるのに対して、民間医療機関の約7割は「未検討・予定なし」と回答している。
- 約4割の医療機関において、2025年に向けた建物・設備の整備・改修について、検討されている。

5 将来のあるべき医療体制に向けて (2) 目標とする指標(案)

1 2025年に向け回復期(サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ)機能への転換が必要と考えられる病床(暫定値)



- 〔 2 圏域内の医療機関への入院割合 〕
- 〔 3 病床稼働率 〕

泉州圏域における医療・病床懇話会での意見

指標について

- ◆ 2025年に向け、回復期（サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ）機能への転換が必要と考えられる病床を指標にする。
- ◆ 高度急性期・急性期病床数は他の圏域に比べて少なく、病床稼働率は極めて高い。
今後はこの点も考慮し、急性期から回復期への病床転換については、慎重に検討すべきである。